

# 内定辞退業界と就職決定業界の比較

2017年3月発行

近年、採用戦線は学生に優位な売り手市場が続いており、複数企業から内定を得る学生は増加傾向。それに伴い、内定辞退も増加している。そこで、内定辞退の現状や、「内定辞退業界」と「就職決定業界」の関係など、内定辞退に関するデータを分析しまとめた。

《調査概要》

■企業調査 「2017年卒 新卒採用に関する企業調査ー内定動向調査」

2016年10月調査	
調査時期	9月26日～10月5日
回答社数	全国の主要企業 1,429社

■学生調査 「キャリアス就活 2017 学生モニター調査」

2016年6～10月調査	
調査時期	2016年6～10月
回答人数	1,161人(実数)

調査方法：インターネット調査法

調査機関：株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

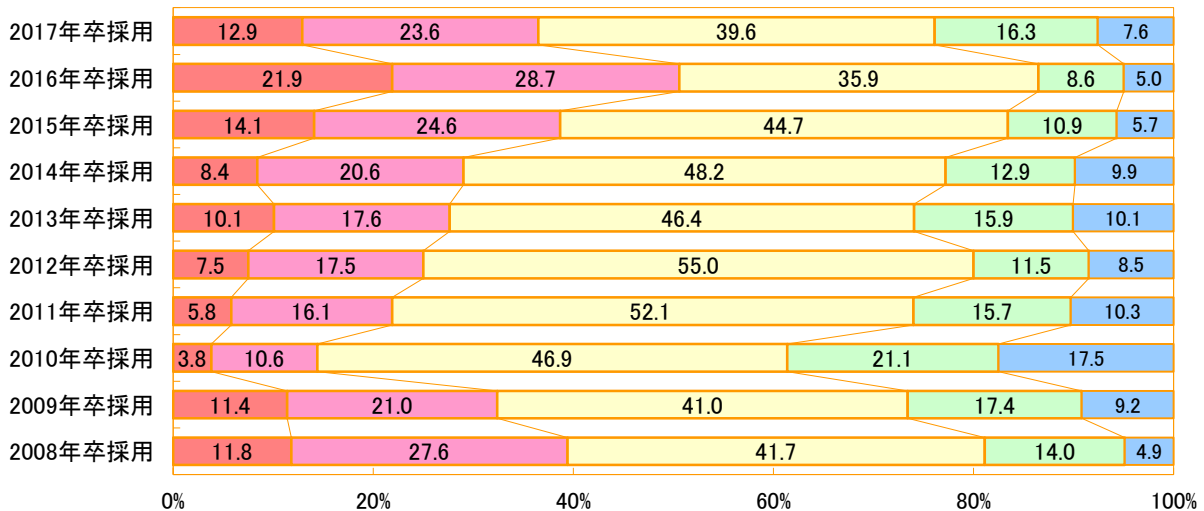
※内定には、内々定を含みます。

## [1] 内定辞退者の増減／企業調査

内定辞退者の増減を経年で見ると、2010年卒採用以降、「増えた」という企業は増加傾向にあることがわかる。2017年卒採用では前年度より改善が見られるが、これは2016年卒採用より選考解禁が2カ月早まったことが要因だと考えられる。内定辞退者が「増えた」という企業が「減った」という企業を上回る状況は依然として続いており、企業の採用意欲が高い現状をかんがみると、2018年卒採用でも大きな改善は見込めないだろう。

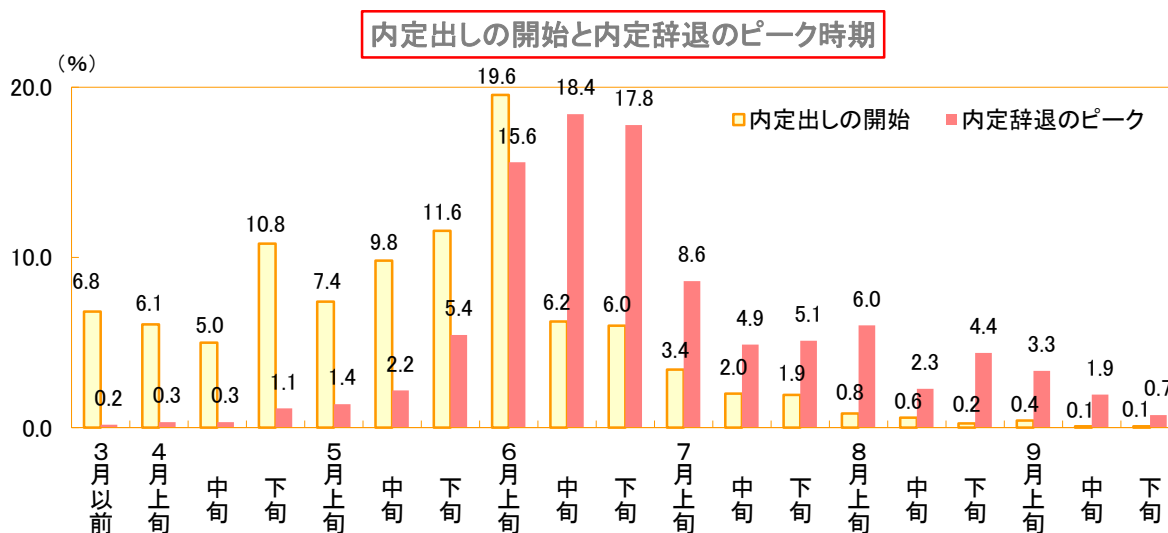
### 内定辞退者の増減(前年度と比較して)

■かなり増えた(3割以上増) ■やや増えた(1～2割増) □変わらない ■やや減った(1～2割減) ■かなり減った(3割以上減)



## 【2】内定出しと内定辞退のピーク時期／企業調査

内定辞退はいつ頃起こるのだろうか。2017年卒者を例に、「内定辞退のピーク時期（最も多く辞退があった時期）」を、「内定出しの開始時期」と比較して見てみよう。まず「内定出しの開始」は4月から6月にかけて分散している。一方「内定辞退のピーク」は6月に集中しており、上旬(15.6%)、中旬(18.4%)、下旬(17.8%)を合わせると過半数に上る(51.8%)。早期から内定を出していた企業は少なくないが、6月1日の選考解禁後に内定が出た企業に就職を決定した学生が多かったため、一気に内定辞退が出たと考えられる。2018年卒採用でも、同様の状況が予想される。

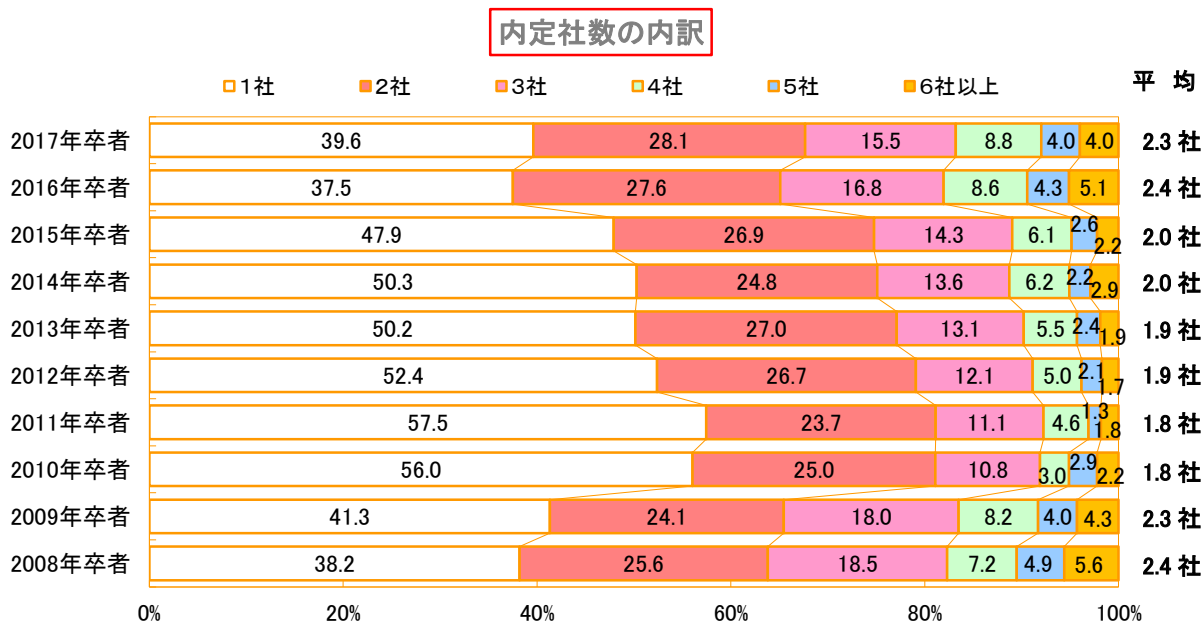
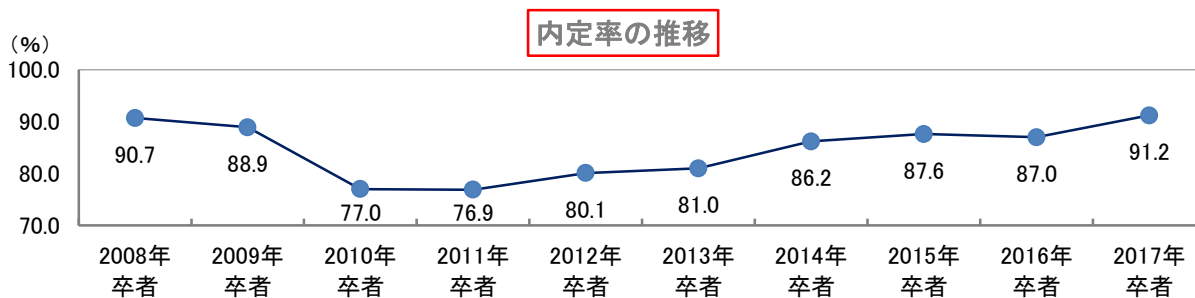


### ■内定辞退に関するコメント／企業調査

- 6月以降の辞退者が相次ぎ、優秀層はことごとく抜けていった。また目標人数も達成出来なかった。 <鉄鋼・非鉄・金属製品>
- 例年より多めに内定を出しているが、辞退がそれ以上に多く、予測していた以上に採用数が揃わない。 <専門店>
- 内定辞退が多発し、本来ターゲットにしていた層の歩留まりが悪かった。 <ゴム・ガラス・セメント・セラミックス>
- 採用選考時期が集中したことにより、大手企業とのバッティングで選考中の辞退等が多く、質の良い学生を確保することに苦労した印象がある。 <建設・住宅・不動産>
- 内定出しの時期が遅かったためか、6月下旬の役員面接直前に辞退する学生が多く、現在の内定者よりも期待値の高かった学生を逃した。 <商社(専門)>
- 内定者辞退に時間と人をかけなければ、優秀な早期内定者が後発の内定先に決定する傾向が強い。 <その他サービス>
- 内定辞退防止も含めて採用活動だと思えばいけない時代だと感じる。 <運輸・倉庫>
- 選考試験の応募者を増やすのはほぼ限界になっているので、今後は内定辞退者を減らすことに注力していきたい。 <情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト>
- 年々上昇する辞退率を少しでも抑え、承諾後の定着率アップを狙いたい。 <建設・住宅・不動産>
- 内定後の内定者に対していかに志望意欲をキープし続けるかが重要になるので、内定後のフォロー一面談を積極的に行いたいと思う。 <印刷・パッケージ>
- 今期は内定者フォローで歩留を引き上げた実績がある為、来期も重点的に実施したい。 <コンビニエンス・GMSストア>

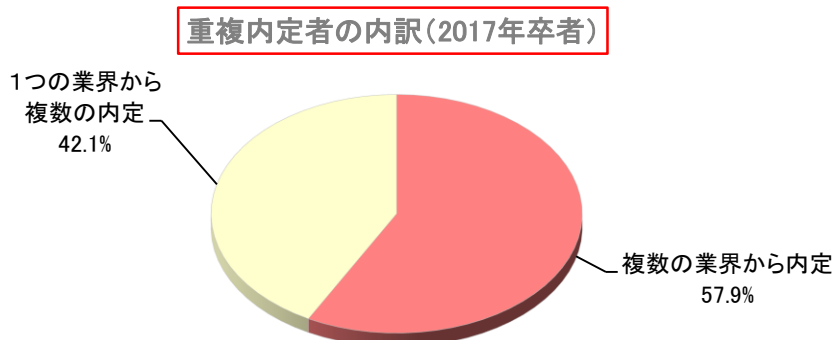
## [3] 内定社数の経年変化（各年10月時点）／学生調査

次に、学生側の内定の実態を確認してみたい。正式内定日である10月1日時点での内定率を経年で見ると、2011年卒者から年々高まっており、2017年卒者の内定率は91.2%に上る。また、2社以上から内定をもらう学生も2011年卒から増加傾向にある。とりわけここ3年は、複数社から内定をもらう学生は過半数に上っている。



## [4] 内定を得た企業の業界／学生調査

複数企業から内定を得た学生が6割を超える中、1つの業界から複数の内定を得た学生と、複数業界から内定を得た学生の割合を算出してみたところ、重複内定者の4割強（42.1%）は1つの業界内で複数社から内定を得ており、残りの6割近く（57.9%）は、業界をまたいで内定を得ていたことがわかった。

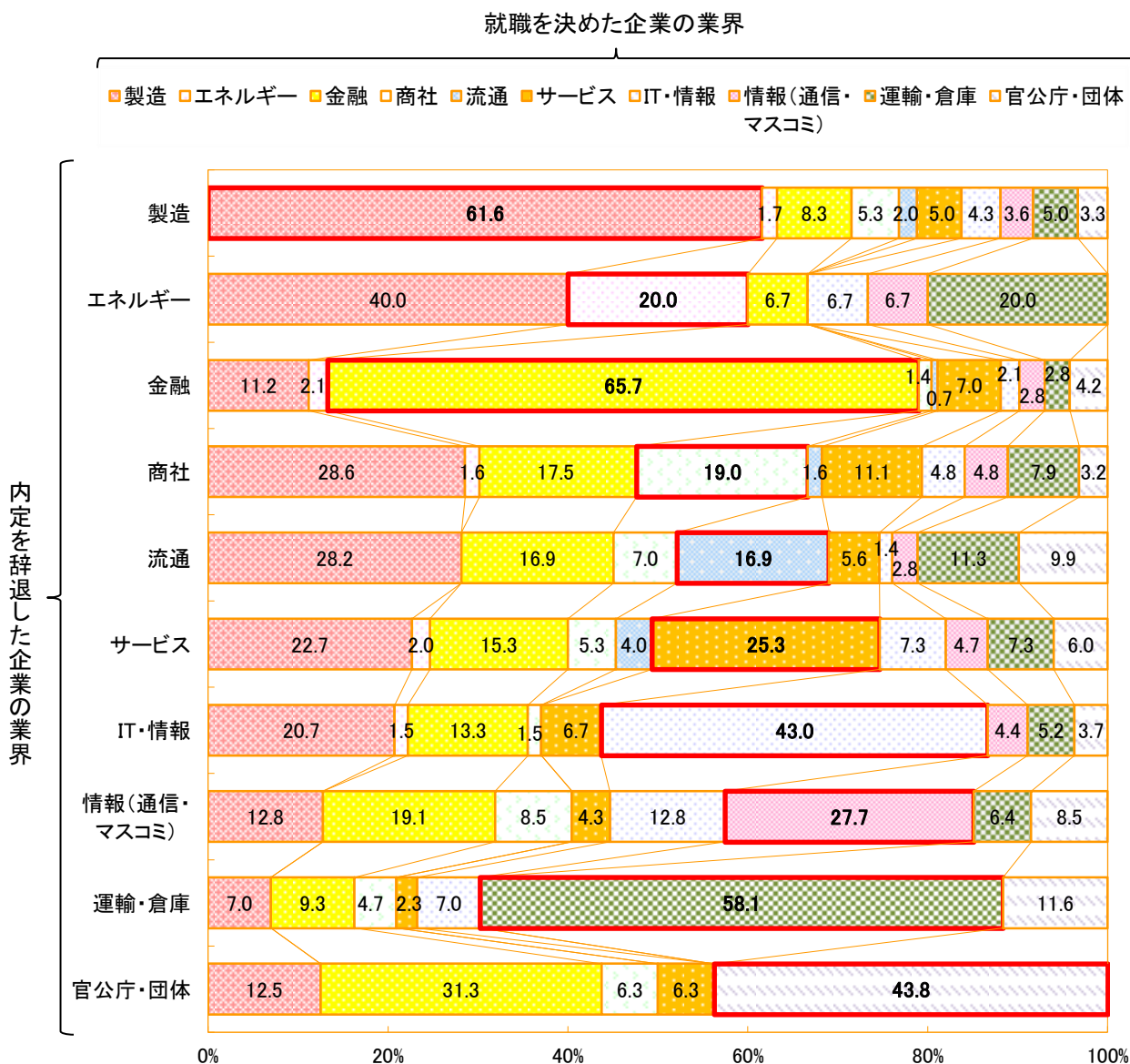


[5] 内定辞退業界別 就職決定業界／学生調査

複数企業から内定を得た学生が、実際にどの業界の企業を辞退して、どの業界の企業に就職を決めたのかを調べてみた。例えば、「金融」を辞退した学生が、結局どの業界の企業に行ったのかを見ると、65.7%が同じ「金融」に決めており、業界内で学生を奪い合う傾向が強いことがわかる。その他、「製造」、「運輸・倉庫」、「官公庁・団体」、「IT・情報」でも辞退した業界と同じ業界に就職を決める学生が多かった。逆に、他業界に決める傾向が強いのは「流通」、「商社」で、内定を辞退した学生のうち、8割以上は他業界へ就職を決めている。

これを文理別に見ると(グラフは次ページ)、内定を辞退した企業の業界と同業界へ行く傾向が強いのは、文系は「金融」(66.2%)、「運輸・倉庫」(59.4%)で、理系は、「製造」(74.2%)、「金融」(61.5%)だった。一方、内定を辞退した企業とは異なる業界の企業へ就職を決める傾向が強いのは、文系は「商社」「流通」、理系は「流通」「サービス」だった。

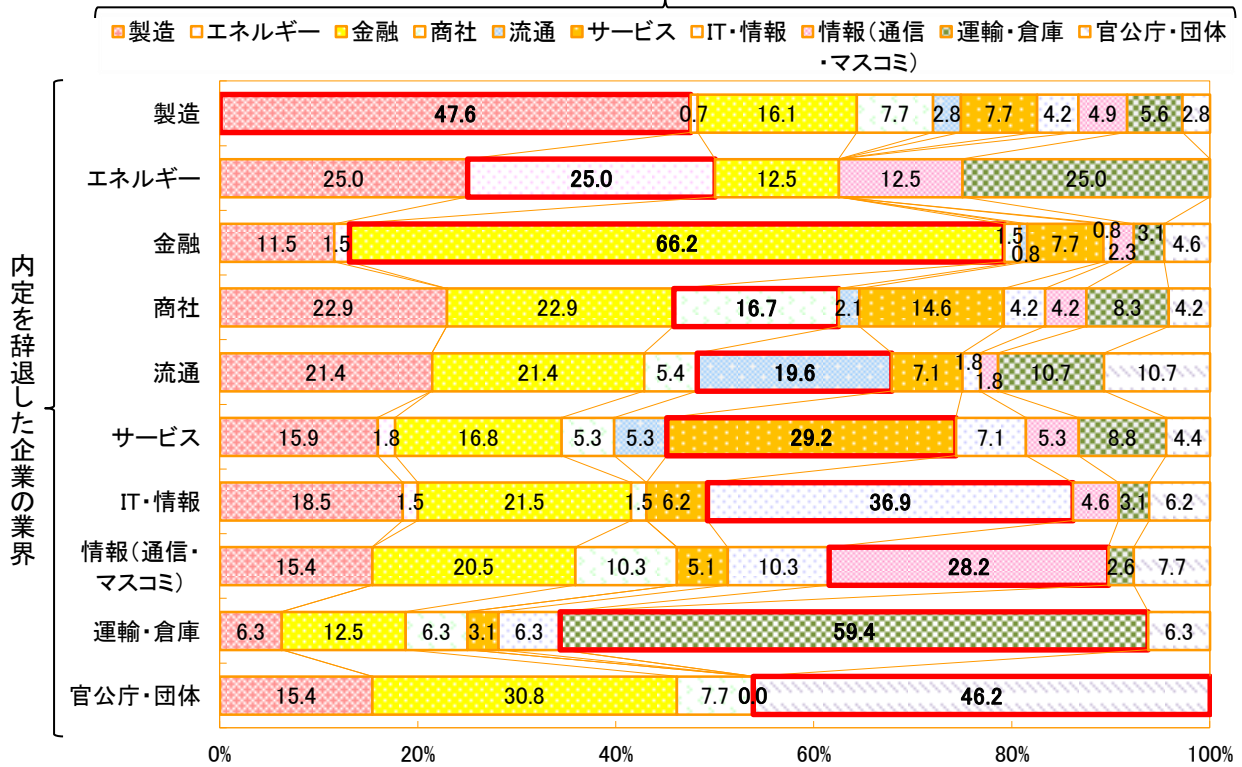
内定辞退業界別 就職決定業界(全体)



※「0.0」は省略

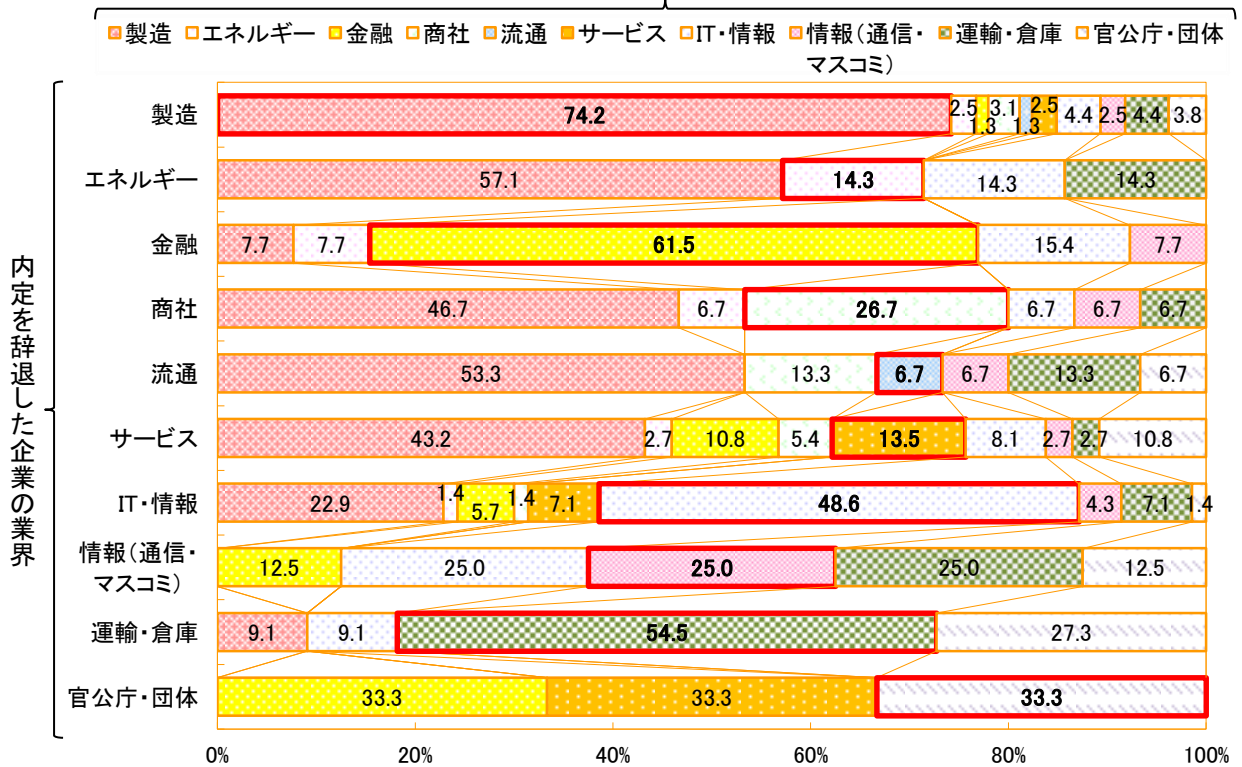
内定辞退業界別 就職決定業界(文系)

就職を決めた企業の業界



内定辞退業界別 就職決定業界(理系)

就職を決めた企業の業界



※「0.0」は省略